

1 章 医療法人 社団美心会

1-1. 理事長ご挨拶



社会保障費削減下での急性期病院の 必要性と維持の難しさ

医療法人 社団美心会
理事長

黒澤 功



1977年（昭和52年）12月に黒沢医院を開院し、2022年には45周年記念を迎え、今日ここに2024年度年報（第6号）を発行させていただきました。3年後には50周年を迎えます。

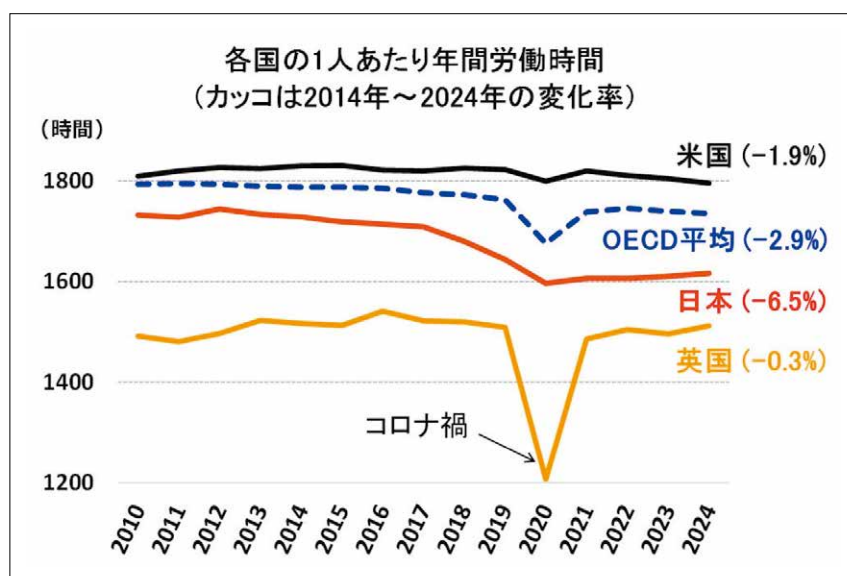
年報第4号まではコロナ感染症に対する記事を主に書き、第5号では日本の労働力不足の中での働き方改革対策や、一般大企業等の大幅なベースアップ、円安、物価高騰の状況下での医療、介護業界の厳しい状況を説明しました。この第6号では、2024年の出来事についての私の総括を書かせていただきます。

■ 社会保障費は多くない

現在、マスコミで話題に上がっているのは社会保障費の増加ですが、日本は少子高齢化社会であり、医療費、介護費、社会保険料が増加することは不可避と考えます。

私は終戦の4年前に生まれましたが、今80歳の方は終戦の年の生まれです。つまり、80歳以上の人達は終戦後、食べ物を十分に食べられませんでした。私も少年の頃はサツマイモ、トウモロコシ、麦飯等が食べられれば上等であり、ひもじい生活をしながら、小学校一年生から朝暗い時間から夕方暗くなるまで家の手伝いをし、四年生位になると朝暗い時間に家を出て1時間位で枯草のある山に行き、これを背負い家に帰り、それから学校に行ったものでした。

大人はもちろん、畑やお蚕等の飼育の為に朝から日暮れまで働き、夜はランプの灯りで草履等を編んでいました。このように、昼は一日も休まず、夜も何かと仕事をして働いてきてくれた80歳以上の高齢者のお陰で、戦後の焼け野が原の状態より頑張り、1968年（昭和43年）日本は当時の西ドイツを抜いてアメリカに次ぐ世界第2位の経済大国となったのです。この年、日本のGNPは約51兆円（1,419億ドル）に達し、前年から実質で14.4%という驚異的



OECD Data Explorerより作成

な成長を遂げました。その後、日本はこの「世界第2位」の座を約40年間維持し続けましたが、2010年に中国に抜かれ第3位に後退し、2023年にはドイツに抜かれ第4位となってしまいました。

これは、2019年の残業規制や有休休暇の取得拡大で、日本の年間労働時間がアメリカより200時間、OECD平均より100時間少なくなったことによる日本の経済力低下が要因と考えられます（図；日本は労働時間の減少率が突出している）。

■ 日本を世界第二位の経済大国にした立役者を大切に

今の高齢者の方々の努力が、日本を世界第2位の経済大国に押し上げてくれたのです。その方達を、今の日本は、社会保障費がかかるからとの考えにより「ないがしろ」にする傾向にあります。しかし、それは間違いではないでしょうか。社会保障費は決して多くありません。日本のために寝る間も惜しみ働き続けてくれた方達、即ち今の高齢者達を優遇するべきです。

そのための財源は、高齢化が進み、交通量が少なくなる第2東名高速や、ほとんど車の走らない災害復興道路等々の大きな資金を使えば、十分に確保できると思います。

今、この原稿を書いている時に参院選挙が始まりましたが、各党の公約が「消費税の減税か給付金」かで争われています。これは目先の恩恵を訴える当選の手段であり、これが実行されれば、「財政や社会保障に打撃を与え、国民や社会の将来に禍根を残す危険な事」となります。真剣に国民の将来を考える候補者であれば、財源や負担の大きさに言及をし、財政や社会保障が破綻しない改革を訴えるべきと考えます。

■ 日本の病院の現状

それでは、日本の今の病院の状況はどうでしょうか。当院は経験豊富な看護師等を配置した急性期病院ですが、日勤は入院患者さん7人、夜勤は12人の患者さんを一人で見る看護配置で大変な忙しさです。にもかかわらず、この入院患者さんの27%以上が重症でないと、日勤帯は看護師1人で10人の患者を看なければならない10対1看護に格下げされてしまいます。その結果、人件費は下がり、病院の収益は上がりますが、看護師を始め多くの職員は更に多忙となり、良い看護ができなくなることで職員、患者さん共に大変な状況となってしまいます。

少子高齢化、諸物価高騰、保険収入減少の中であっても、多くの優秀な人材と最新鋭の機械を整えなければ患者さんの望む高度な医療は提供できないため、多くの病院が経営難に陥っています。

■ 公立、私立病院への平等な給付が必要では

公立病院には、2022年の時点で8,504億円の繰入金が入入されており、その金額はほぼ毎年上昇し、一床当たり年間約409万円、一日あたり1万1千円余が入入されています。当院は130床なので、公立病院なら毎日143万円をもらいながら運営できることになります。全国平均でも救急車の6割を民間病院が受ける等、地元や国のために公立病院と互角に貢献している民間病院に対して、国は同等の給付をなすべきではないでしょうか。

つまり、医療費の値上げや公立病院と同額の給付をおこない、公立病院と同様に私立病院も無税とすることが必要です。また、医療機関が消費税の最終納付者となるのではなく、他の物価と同様に現物の最終受取者にすることがあたり前と考えます。

公立病院と私立病院を平等にすることで、医療費全体の削減ができ、より高度な医療を実現できる医療体制が確立できると考えられます。

2024年度 理事長講演、記事掲載等

● 講演会

2024年 4月 4日	健康は皆の幸せ 会社への貢献	群栄化学工業株式会社
10月27日	生活習慣病を治し健康長寿延伸	第28回美心祭
11月12日	100年人生を楽しむために！	群馬県職員退職者会（県庁）
2025年 3月30日	今から治せる生活習慣病	第23回健康支援教室（高崎芸術劇場）

● ラジオ出演

2025年 3月28日	軽井沢ラジオ大学	FM軽井沢
-------------	----------	-------

● 新聞記事、雑誌掲載（理事長によるコメントが掲載されているもの）

2024年 5月 8日	コロナ5類から1年 移行後も繰り返す流行	上毛新聞
10月31日	医療機器親しみ 健康維持に関心 美心会が病院祭	上毛新聞
11月 9日	「子どもたちに本を」美心祭売上寄付	上毛新聞
2025年 2月22日	脳卒中コアセンター認定（1面企画）	上毛新聞
3月28日	看護師国家試験 ベトナム人3名 異国の地で合格	上毛新聞
3月31日	健康への学び深める	上毛新聞



美心祭における講演（ヘルスパーククリニック）



健康支援教室における講演（高崎芸術劇場）

1-2. 副理事長ご挨拶



開設48年目を振り返って

医療法人 社団美心会
副理事長

黒澤 由美子



1977年12月19日 中居町に黒沢医院を開業させていただき早48年、12人のスタッフで歩み始めた医院が2024年には美心会グループ総勢1000人余りの大所帯となりました。開業当初から目標にしていたのは、「病気の予防と病気にならない身体づくり」です。と言うのは、私の母は42才で小さなクリニックへ入院しましたが、1週間で病気が悪化、意識不明となり大病院へ転院後、その日のうちに亡くなってしまいました。私が大学を卒業する間際の出来事で、このことは大きなショックでした。クリニックを開業するにあたり、このような悲しい出来事を起こしてはならないと思い、予防の知識を医療と関わりのない人にも知ってほしいという思いで、理事長（当時は院長）と相談して「クリニックの新聞」を出しました。

新聞の名前は理事長の故郷の川の名前「神流川」としました。自分が小さい時から「お医者さんの家族は病気にならない?」という素朴な疑問を持っていたので、自分が薬剤師の勉強をする中で「病気の知識があれば予防の知識ができる」という事に気が付いたからです。最初はコピー機もなかったので「ガリ版刷り」で作り、クリニックに置いたり回覧板に入れていただいたりしました。

1977年から始まり、現在のBISHINに至るまで続けてきました。誌名も変わり、2010年には全国ヘルスケア情報誌コンクールで「広報日本一」にもなり、解りやすい医療のお伝えする意気込みで制作しています。今では多くの医師にも執筆いただき、最新の医療情報を掲載させていただいています。これからも病院としての役目である有意義な予防の知識をお伝えできるよう継続していきたいと思っています。



神流川 → 黒沢医院だより → ふれあい → BISHIN と変遷してきました

1-3. 特別寄稿



黒沢病院2024年度年報に寄せて (黒沢病院脳卒中センター PSC core施設認定を祝して)

栗田 浩樹

埼玉医科大学国際医療センター
副院長・脳卒中センター長
脳卒中外科教授・診療部長
脳神経外科・運営責任者
黒沢病院脳卒中センター 顧問

黒沢病院の皆様、いつも大変お世話になっております。貴院に脳卒中センターが開設されてから、干支が一回り致しました。月日が経つのは本当に早いものです。2024年度から群馬県内で5つしかないPSC core施設に認定され、現在貴センターは北関東を代表する脳卒中診療施設として、アカデミアでも広く認知されています。また、日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本脳神経外傷学会認定研修施設、日本脳ドック学会認定研修施設等、若手医師の教育機関としても高く評価されており、貴センターから巣立った若手医師が、現在全国で活躍をしています。今までの黒澤理事長を始め、大森副院長、小倉脳卒中センター長、事務の方々のご尽力に、改めて深謝申し上げます。

設立以来、貴センターは一貫して本学脳神経外科プログラムの専攻医教育に多大な貢献をして頂いており、現在まで貴院をローテーションさせて頂いた医局員は20名以上に上ります。2024年度も五反聡司（2024.4-9月）、福本一樹（2024.10-2025.3）の2名が研修させて頂き、また米国留学の塚越瑛介、大学に診療副部長として戻った寺西亮雄に変わり、中堅の小林広樹、吉田馨二郎、木村達規がセンターを引っ張りました。医師がさらに若返り、人数も増えたため、2024年は脳卒中センターにさらに活気が漲った1年ではなかったかと思えます。恒例になりましたが、今まで世話になった医局員の写真を以下に添えます。皆様の暖かいご指導に改めて深謝申し上げます。



1-4. 医療法人 社団美心会の理念と目標

《 経 営 理 念 》

良質な総合医療サービスの提供

美心会は、保健・医療・福祉・介護の各サービス・セミナーの企画と開催を事業としています。

《 2024年度 ISO品質方針 》

1. 地域社会に貢献できる総合医療サービスを提供する
2. 全職員は力量を高め、働きやすい職場をめざす
3. 地域包括ケアシステムを強化し、地域の医療と介護の中核を担う

《 2024年度 ISO品質目標 》

1. すべての部署は、ご利用者様受け入れを増加させる
2. 急性期医療を継続・発展させ、地域の高度医療を牽引する
3. すべての職員は、ご利用者様ファーストの接遇を行う
4. 新たな感染症に備え、感染予防対策を徹底する
5. 仕事は「正しく・速く・落ち着いて」行う
6. コスト意識を高く持ち、すべての無駄をなくす

美心会マーク [Bishinkai Medical Corporation CI]



美心会の“心”がモチーフです。3つの楕円は、保健・医療・福祉、同時に過去・現在・未来も表しています。

現状を打破して新しい未来に向かおうとする上昇志向＝「ブレイクスルー」を表現したマークです。

当法人は、常に上昇志向を持ち、私たちが提供する医療サービスを通じて、人々が健康で安心して生活できるよう、ご支援することを目指しています。

今まで以上に信頼される病院を目指して

医療法人社団美心会 事務局長 渡辺 隆男

美心会のISO品質方針は、

- ① 地域社会に貢献できる総合医療サービスを提供する
- ② 全職員は力量を高め、働きやすい職場をめざす
- ③ 地域包括ケアシステムを強化し、地域の医療と介護の中核を担う

とある。改めてこの方針の意味を考え、2024年度の病院の運営状況を振り返り「信頼される病院」について考えた。

1 地域から信頼される病院

ア. 患者さんから信頼される病院 質の高い医療（急性期、救急、災害医療を含む）、心のこもった挨拶、親切丁寧な説明、患者さんに寄り添った援助などをおこない、「思いやりの心あふれる病院」づくりに努め多くのお褒めの言葉をいただいた。

イ. 行政から信頼される病院 コロナ感染症の拡大時に職員の協力によりコロナ感染症に立ち向かい、いち早く発熱外来及びコロナ病床の開設をおこなった。行政機関（県・高崎市）からの要請に積極的に協力し、信頼関係を構築した。

ウ. 消防署（救急）から信頼される病院 当院は、昨年度4500台余りの救急搬送を受け入れ、救急病院として地域医療に貢献した。本院の規模では極めて多い台数の救急車を受け入れており、「救急車を断らない病院」を目指す姿勢は、消防署や周囲の医療機関・福祉施設との信頼関係の構築に寄与している。

2 地域の医療機関・福祉施設から信頼される病院

救急医療、急性期診療をおこないながら、他の病院、診療所や介護施設との連携を保つため、入退院支援センターを設置し、他施設から当院への紹介患者の受け入れや、逆に当院から他施設への患者紹介を円滑におこなった。病院・診療所・福祉施設が信頼関係で結ばれ役割を分担しつつ、地域包括ケアシステムが円滑に運用できるようにした。

3 職員から信頼される病院

ア. 上記1、2を達成するためには、病院で働く職員が活き活きと活躍できる環境作りが大切であると考えている。病院業務で経験を積み、その経験を基に職員1人一人が成長していく、病院はそんな場所であるべきと考えている。

イ. 職員の健康づくり、ワーク・ライフ・バランスの推進、良好な人間関係の構築、及び職員個々の能力向上のための研修等の充実に努めた。

最後に、職員が安心して働くため、地域の医療を守るために、黒字経営を維持していく必要がある。引き続き、職員全員で収入の増加、支出の削減、業務の効率化を徹底的に行う必要がある。「それは患者様のためになっていきますか」を合言葉に、常に時代・環境の変化を認識し、これまでどおり柔軟に対応していくことで、今まで以上に信頼される病院にしていきたい。

ISO9001認証取得とBCP対策

医療法人社団美心会 管理局長 佐藤 武夫

ISO9001認証取得について

ISO9001は、商品・サービスの品質に関わる、世界中で最も普及しているISO規格で、2025年3月現在、国内では約22,000の企業や団体が認証取得していますが、「医療及び社会事業」分野では242件に過ぎません。美心会は2001年12月5日に認証取得しましたが、病院（医療法人）としては県内初、全国では13番目になります。

ISO9001は一度認証を取得すれば良いというものではなく、3年ごとに更新審査を受審して、継続的に認証を取得する必要があります。美心会は2001年の認証取得以来、7回の更新審査を経て現在に至っています。

美心会では、ISOの要求事項を遵守し、適正に組織運営がなされていることを内部的にもチェックするため、監査員資格を取得した約180名の職員による内部監査を年2回実施しています。他部署所属の監査員が厳正な視点で監査を実施することにより、不適合や観察事項が指摘され、是正処置を講ずることで業務改善につながっています。

医療機関・介護施設を取り巻く環境が極めて厳しい昨今、これまで以上に患者さん・ご利用者の方々の信頼を得て、美心会が地域に欠くべからざる地域包括ケアシステムの機能を遺憾なく発揮し続けるためにも、すべての職員が引き続き積極的にサービス品質の向上に取り組む必要があります。

災害対策について

黒沢病院・ヘルスパーククリニックに関しては、2022年度に自然災害時のBCP（事業継続計画）を策定し、大規模災害に備えた病院機能の維持継続に向けた取り組みを進めてきました。近年の災害対策は以下のとおりです。

2023年 3月	黒沢病院BCPを策定
2023年10月	井戸水浄化システム稼働開始（平時から上水の大半を浄化井戸水で賄う）
2024年 8月	病院・ヘルスパーク開口部に止水板を設置（ゲリラ豪雨時の雨水の浸入を防止）
2204年10月	災害備蓄用食料品・飲用保存水（カーサ・デ・ヴェルデ黒沢分を含む）を備蓄
2025年 1月	災害用備蓄品倉庫（コンテナ）設置（4基）

当院が立地する地域は、市のハザードマップでも洪水被害はほぼ想定されていないため、当院BCPが想定する災害は大規模地震が主となります。しかし当院の建物は免振・耐震構造となっており、震度7の地震にも耐える構造となっているため、主に停電時の電源対策、断水時の上水の確保等、公共インフラに甚大な被害が及んだ際の対策を重視しています。

災害対策は万全ということはありませんので、今後も引き続きBCPをアップデートしつつ、非常参集訓練や図上訓練などを通じて万一の事態に備えることとしています。大規模災害時も外来診療や救急医療を継続することで、当院は地域の核となる医療機関としての役割を果たしてまいります。



ゲリラ豪雨に備える止水板を設置

美心会グループ学術大会

医療法人社団美心会 統括技術室長 三輪 篤史

毎年2月頃、当法人では、日曜日の1日を使って「美心会グループ学術大会」が開催されます。これは2016年度より始まったもので、2024年度は2025年2月16日に第9回が開催されました。

毎回、病院7階にある広さ約330㎡の美心ホールを使い、先生方や法人各部署の職員、100名以上が参加して進められます。内容は、時勢を反映したセッションで構成され、今回は6セッション、34演題が様々な部署の職員から発表されました。また、学術大会実行委員長の古谷統括診療部長による特別講演「泌尿器科の最新手術 ～ロボット支援手術の現状と展望～」も行われました（下表）。

この学術大会に毎年参加してきて感じるの、職員による発表のレベルが全体的に向上しつつあるということです。以前は、データの解釈に問題があったり、発表者が原稿を棒読みするだけ、といったことも散見されていましたが、最近はきちんとした発表が多くなりました。座長を任命された職員も皆、座長としての役割をきちんと果たせるようになりました。スライドをまとめて発表したり、座長をこなしたりすることで、多くの職員が学術活動に必要な素養を身に着けつつあると感じます。

実は、この学術大会の意義は他にもあります。美心会は素晴らしく発展して、組織として大きくなりました。もはや個々の職員が普段の業務の中で、美心会の全体像を把握するのはかなり難しい状況です。しかし、学術大会で多くの部署の発表を視聴することで、様々な部署の業務や課題、工夫などを知ることができます。そして、他部署での事例を自部署の業務に活かすことにもつながります。

学術活動を続けるには意欲と余力が必要で、日銭稼ぎに追われたギリギリの状態にある組織では到底続けられるものではありません。美心会が、組織や職員達の長期的な成長のために学術活動を重視し、十分な時間とコストをかけて継続的に取り組んでいることは、とても素晴らしいと思います。

セッション	演 題	筆頭演者
看護・リハビリ	多職種協働連携で経口摂取可能、施設帰院を果たした超高齢認知症患者の1例	診療部 木暮 総合診療科部長
	当院救急外来における看護師特定行為による医師の負担軽減の可能性	手術室 新井
	腱板断裂患者におけるAPAsの解明	老健 飯塚
	脳卒中片麻痺患者における予測的姿勢調節と下肢機能との関連性	リハ 金井
	CVK自主トレーニング資料配布の効果	カーサ 内田
	透析中の運動療法が身体機能・生化学的検査数値に及ぼす影響	リハ 寺沢
介護	老健くさわにおける外国人スタッフの取り組み	老健 バンガリ
	日本に来て2年間の経験と学んだこと	やまの花 シャリー
	当施設における転帰先に対する関連要因の実態調査	老健 松本
	ヘルパーステーションくさわのICT化による現状打破について	高崎東部福祉 中村
	令和6年能登半島地震発生に伴う介護職員応援活動（派遣事業）報告	さとの花 宮口
急性期先進医療・医療DXの取り組み	黒沢病院におけるクリニカルパス導入からの推移について	手術室 中山
	当院SCUにおける経腸栄養プロトコル導入による効果の検討	栄養部 横山
	胸部レントゲンのAI画像診断支援システムを導入して	放射線部 齋藤
	当院における処方提案事例の分析	薬剤部 松本
	当院における吸着型血液浄化器レオカーナの使用経験	透析セ 内谷
特別講演	泌尿器科の最新手術 ～ロボット支援手術の現状と展望～	診療部 古田 統括診療部長
予防医療	便潜血反応陽性が2年以上連続する精検未受診例における大腸がん発見率	高崎健康管理セ 原
	当院人間ドックにおいて検査中止を検討すべきであった3事例	高崎健康管理セ 望月
	当院人間ドックにおける顧客ロイヤルティの指標「NPS®」の検討	高崎健康管理セ 植井
	人間ドックにおけるCEA測定の臨床的意義	検査部 伴野
	人間ドックにおける白血球の基準値の検討	検査部 齋藤
	新型コロナウイルスワクチン接種状況と新型コロナウイルスの症状に関する検討	健康管理室 高野
地域包括ケア	最期まで自宅で過ごしたい認知症高齢者夫妻の看取りを支える	高崎東部福祉 村上
	脳卒中相談窓口の役割 ～一次脳卒中センターコア施設認定を受けて～	入退院支援セ 黒田
	地域を支える～中間施設から在宅支援施設へ～	老健 板垣
	地域住民の孤立を起こさないための薬局の活動～アイケイステラホールでの健康イベント報告～	アイケイ薬局中居店 柳澤
	医療・介護につなげるのが困難だったA様との関わり～多職種・多機関連携を考える～	高崎東部福祉 高橋
検査・放射線	水道水から地下水への原水変更を経験して	透析セ 藤生
	人間ドックの眼底検査でのパニック対応（Keith-Wagner Ⅲ群の拾い上げ）	検査部 高柳
	当院における睡眠時無呼吸症候群診断を目的とした検査の実感	検査部 結城
	今年で3年目を迎えた院内血液培養検査 ～院内化がもたらした効果とは～	検査部 水出
	Corynebacterium speciesによるカテーテル関連血流感染症から感染性心内膜炎の合併を疑った症例	検査部 相田
	フローダイバーター術後の動脈瘤消失評価におけるT1-cube撮影の有用性	放射線部 天川
	脾臓副脾、脾管癌との鑑別に苦慮した遠隔性脾炎の1例	放射線部 長

1-5. 医療法人 社団美心会の健康経営に関する外部評価

企業活動における「経営」と職員の「健康」は二律背反ではなく、相互補完の係にあり、かつ相乗効果を生む両輪となるものです。美心会は2020年度より健康管理室を設置して、職員の健康維持・増進と職場環境の改善に多くの労力とコストをかけて取り組んできました（詳細は、健康管理室の項参照）。その成果は、経産省が主導し日本健康会議が認定する健康経営優良法人認定制度ホワイト500にチャレンジすることで客観的に評価しています。ここでは、このホワイト500評価結果について紹介します。



● ホワイト500（健康経営優良法人）評価の変遷と2024年度評価の内訳

美心会の健康経営度の評価結果について、表1に過去5年間の総合評価結果の推移を示します。これまで健康経営優良法人認定を8年連続、ホワイト500認定を通算7回（2020年度以降は5年連続）受けています。毎年、参加企業数が増加している日本中の総ての職種の大企業の中で、美心会は総合評価の偏差値を上げ続け、2021年度以降は連続3年、総合順位でトップ50社以内です。

表1. 評価の変遷（直近5回）

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
総合順位	51-100位	1-50位	1-50位	1-50位	1-50位
総合評価	63.5	65.4	65.8	66.9	66.4
回答企業数	2523社	2869社	3169社	3520社	3400社
認定	ホワイト500	ホワイト500	ホワイト500	ホワイト500	ホワイト500

表2は、2024年度における美心会の評価結果（2025年認定）の内訳で、「経営理念・方針」、「組織体制」、「精度・政策実行」、および「評価・改善」の4項目と、それらから算出される「総合評価」の合計5項目について、参加企業の中での美心会の位置を示しています。美心会は、5項目中で総合評価を含む3項目の偏差値が業種中でトップであり、回答企業全体でも組織体制は偏差値68.3とトップでした。

表2. 健康経営度調査フィードバックシート「評価の内訳」

項目	美心会	回答法人トップ	業種トップ	業種平均
総合評価	66.4	69.2	66.4	49.1
経営理念・方針	65.7	68.7	66.0	49.8
組織体制	68.3	68.3	68.3	49.7
制度・政策実行	65.2	71.9	67.9	47.2
評価・改善	66.5	69.9	66.5	49.3

これらの結果から、美心会の健康経営は毎年進歩しながら、高いレベルで成功しつつあると言えます。健康経営の更なる充実を図るには黒字経営であることが必要です。美心会は、患者さんや地域の方々、そして職員のために一生懸命汗をかいて事業の拡大・安定に努めることが自然と利益につながると考えています。そしてその利益を今後も地域や職員に還元しつつ、地域とともに発展していきます。

健康の秘訣は ”良く働き、よく旅をする”

医療法人 社団美心会 理事長 黒澤 功

年報4号まで、私のコラムも真面目な事を書いていましたが、多くの職員より「私の趣味、遊び方等を書いてください」とのリクエストがありましたので、第5号では【健康の秘訣は ”良く働き、良く遊ぶ”】とし、今回第6号は【健康の秘訣は ”良く働き、よく旅をする”】と題して、昨年一年の主な旅を思い出しながら書かせていただきます。

● 2024年1月4日～12日 オーストラリア（7泊8日）

2024年1月3日の夜にホテルメトロポリタンにて、美心会グループ約300人で新年会を盛大におこない、1月4日の夜に成田空港を出発。翌朝、オーストラリアのブリスベンに到着、近くのゴルフ場へ。野外でゴルフ着に着替え、1ラウンド。その後、約20年前まではアジア人は日本人だけしか入れないといわれていた、高級リゾート地である日本の軽井沢の様なヌーサへ。ここで2泊。翌日はゴルフを2ラウンドおこない、3日目にはゴールドコーストへ向かう途中でもう1ラウンド。ゴールドコーストに着くとすぐホテルにチェックインし、その日は疲れていたので辛い韓国料理を食べに行き、公営のカジノに出陣。ゴールドコーストでは、現地に住んでいる日本人が朝「おにぎり」を持ってホテルに迎えに来てくれた。それを食べながらゴルフ場へ行き2ラウンド。ホテルで入浴後、夕食を食べ、そこからカジノへ。ブラックジャックで「コツコツと貯めて」、これを元にルーレットで一発勝負をして、大勝か0になって、夜11時にホテルに帰り、翌朝7時にホテルを出発、またゴルフを2ラウンド、夕食後カジノに行くのを繰り返す。遊びが仕事の様な毎日を6日間過ごして帰国。

● 4月26日～5月5日 “元気！カリフォルニア、アリゾナ遊びっ放し！（9泊10日）

4月26日夜に羽田発でロサンゼルスに向い、17時間で到着。Casino Resortに3泊4日。4月27日の8時40分スタートでゴルフをし、この日は1ラウンドで終了。ホテルに帰りカジノへ。4月28日は池の多いコースでゴルフ。4月29日は午前5時にアリゾナ州スコッデールへ向かい、5時間で到着。松山英樹が2016年2017年とアメリカPGAのアリゾナのフェニックスオープンで連続優勝した【TPCスコッデール】ゴルフ場にて楽しんだ。このコースは全員キャディを付けないと出来ないのだが、驚いた事に

ここのキャディはティーショットをするグラウンドにいるのではなく、私達がドライバーで飛ばす距離を予測して150ヤード位先の所で見ていた。そして、私と妻が楽しく遊んでいると分かったら、ラフに入ったボールは打ち易い様に草でティーアップしてくれたり、その一方で、私の弟子達、若者のボールは触らないでいるという、大変ユーモアのあるアシスタントプロ級の腕前のキャディであった。彼らと共にアリゾナらしい乾燥地帯で、コース外ではサボテンやヘビに注意しながら、存分にゴルフを楽しんだ。



(左)アリゾナのボルダースゴルフクラブにて、プレーしながらスコッツデールの山をバックに

(右) 2016年のPGA ツアー、フェニックスオープンにて優勝した時の松山選手と開催コース TPC スコッツデールのクラブハウスロビーにて

● 4月29日～5月2日 トーキングスティックリゾート（6泊7日）

毎日ゴルフをし、5月1日の夜はドジャースvsダイヤモンドバックスの野球観戦。大谷選手、山本選手の活躍を見て楽しんだ。5月2日フェニックスPHX空港よりサンタアナへ。2泊3日で、日中ゴルフ、夜カジノの毎日過ごす。5月4日ロス空港へ、5月5日12時45分成田着。体力と気力と知力の活性化成功で、疾風の如く砂漠地帯を駆け抜け、数々のゴルフコースとカジノ三昧の日々。そして、大谷選手の応援に駆けつけ、連日のカジノ残業もしっかりと楽しみながら、日本の日頃の激務を忘れ去る“元気カリフォルニア&アリゾナ遊びっ放し”の1週間を楽しんだ。

● 10月9日～10月15日 モロッコ 周遊（6泊7日）

9時55分羽田空港を出発、ヒースロー空港に16時20分着。非常に広い空港内をタクシーで移動しモロッコ行き搭乗口へ。18時10分発飛行機に乗り、21時30分カサブランカ近くの空港着。23時30分ホテル到着。10月10日はカサブランカ近郊を見学し泊まり、10月11日はサハラ砂漠の夕日を見る為にサンセットツアーへ。砂漠に着き、ランクルに乗り換えて砂漠を走った。きれいな夕日に間に合って良かった。その夜は砂漠の中のテントに泊まり、翌朝はまだ暗いうちにラクダに乗り、砂漠を歩いた。砂漠の山の頂上から見た朝日はなんとも言えない景色であり、モロッコに来て本当に良かったと感じた時だった。



日の出を見ての帰り



イタリア在住の友人夫妻と共に



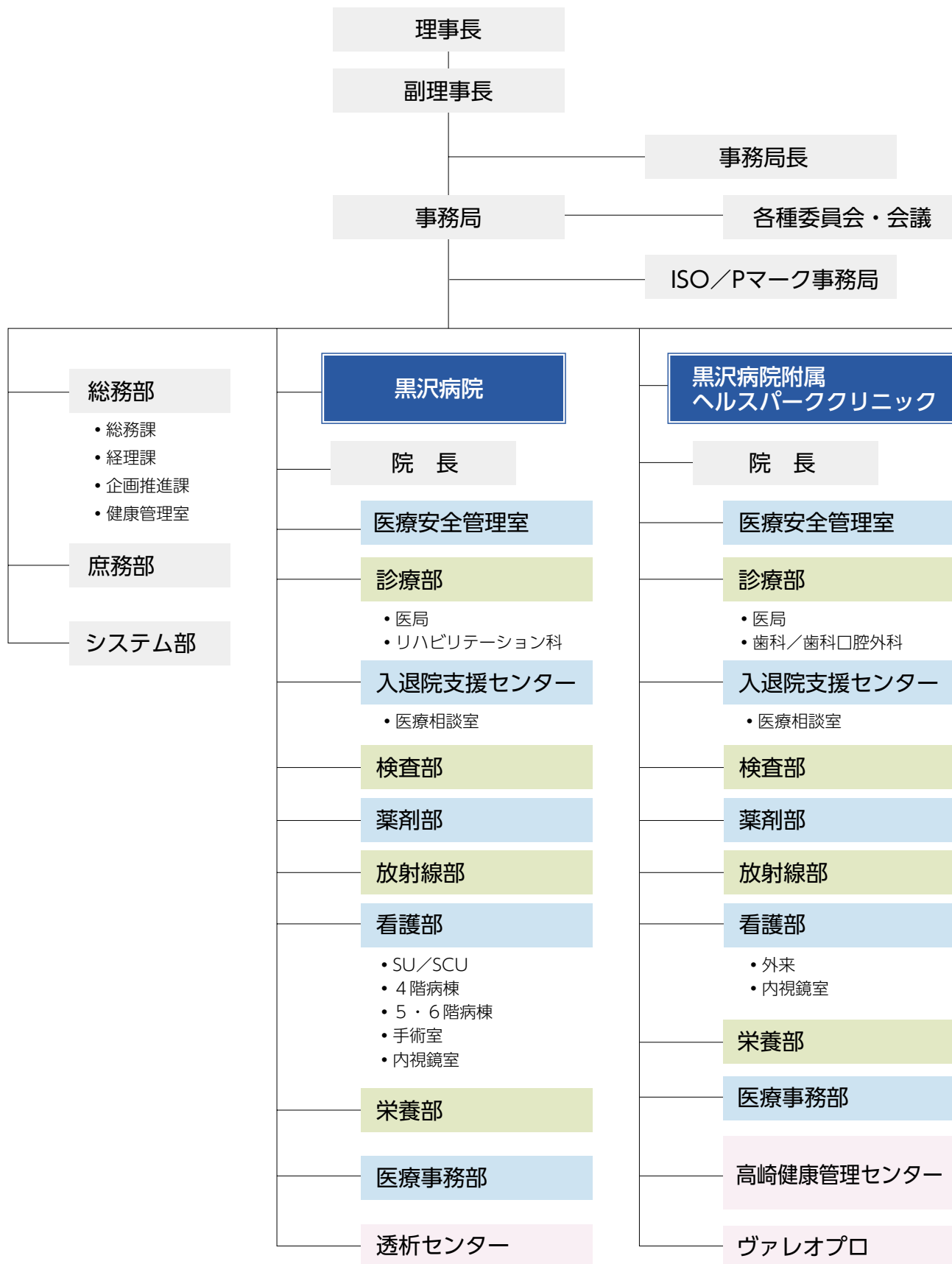
サハラ砂漠の日の出

この他に、

- ・2月22日～25日：暖かい宮古島でゴルフ。
- ・3月18日～22日：対馬へ蒙古の大軍が襲来した時に日本防衛の為に尽力した人の墓参り。
- ・6月6日～9日：南極で知り合った長崎県の友人の船で海釣り。
- ・7月5日～9月22日：土曜日の朝4：00に家を出て、富山に8：00に着きコンビニでおにぎりを買ひ、魚場で暗くなるまで鮎釣り。15分でビジネスホテルの風呂に入り、弟子達と居酒屋へ。翌日PM7：00に高崎に帰る。

運動をしてストレス解消になる毎週末を楽しんでいます。そして11月21日～11月24日まで宮古島へ、ゴルフツアーに妻と出かけました。ここで皆様に吉報です。宮古島に着いたら「海の幸」というレストランに早くから予約して行ってください。「群馬の黒澤に紹介されて来た」と。魚が美味しく、特に伊勢海老のグラタン焼、サシミが絶品です。

1-6. 医療法人 社団美心会の組織





医療法人 社団美心会は、機能別に施設の充実化に取り組み、
医療・保健・介護の各分野で、良質な医療サービスの提供に努めています。
美心会グループの各施設・職員全員が心を一つにして「医は美心なり」の考えを持ち、
社会貢献に日々努めております。

介護老人保健施設 老健くろさわ



病院から退院した方や生活機能が低下した方の在宅復帰を支援します。医師・看護師・介護福祉士・リハビリ・管理栄養士など、多職種が協力し、生活リハビリ訓練のサポートに努めています。

高崎東部福祉 総合相談センター



居宅介護支援、訪問看護、ホームヘルパー等、在宅生活を快適に過ごしていただけるよう各種サービスを提供しています。サービス付き高齢者向け住宅「ラ・ヴィオラ中居」やあんしんセンターくろさわ・岩鼻の運営もおこなっております。

介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢



黒沢病院の向かいに建てられた、リゾートホテルのように快適で安心できる住み心地の有料老人ホームです。緑豊かな庭園、フィットネスやスパなどの充実した設備はもちろん、看護・介護スタッフがご入居者の個性を尊重したケアを提供します。

株式会社 ブラビック



卸売業、委託事業、車両リース、生活支援サービス「ベンリーくろさわ」を運営

社会福祉法人 ペレンナトリリウム シェステやまの花



多野郡神流町に開設。特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ホームヘルパーステーション、居宅介護支援センターなど、リハビリや介護相談など気軽に利用できる施設となっています。

社会福祉法人 マグノリア2000 シェステさとの花



高崎市乗附町に開設。特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、居宅介護支援センター、ケアサポートセンター、ユニット型特養、高齢者あんしんセンター、グループホームなど碓氷川のほとり、自然に囲まれた環境で様々な介護サービスを提供しています。

1-7. 医療法人 社団美心会の沿革

- 1977（昭和52年）12月 黒沢医院（病床数7床、透析病床数10床）開院
- 1980（昭和55年）2月 院外処方箋の発行開始
- 1985（昭和60年）6月 黒沢病院東棟完成（病床数43床、透析病床数20床）
- 1988（昭和63年）9月 高崎結石破碎センター開設
- 1989（平成1年）10月 黒沢病院西棟完成（病床数86床、透析病床数30床）
10月 高崎健康管理センターを開設
- 1991（平成3年）6月 脳ドック開始
- 1996（平成8年）11月 医療法人 社団美心会 設立
- 1997（平成9年）3月 病床数12床増加 98床となる
3月 訪問看護ステーションくろさわ開設
12月 社会福祉法人ペレンナトリリアム設立（理事長：黒澤功）
- 1998（平成10年）10月 日本医療機能評価機構（一般病院種別A）認定取得
- 1999（平成11年）3月 医療法人 社団美心会シンボルマーク決定
4月 社会福祉法人ペレンナトリリアムが特別養護老人ホーム「シェステやまの花」を神流町に開設
8月 居宅介護支援センターくろさわ開設
11月 ヘルパーステーションくろさわ開設
- 2000（平成12年）6月 社会福祉法人マグノリア 2000 を設立（理事長：黒澤功）
- 2001（平成13年）9月 オーダーリングシステムを導入
12月 ISO9001:2000を認証取得
- 2002（平成14年）2月 社会福祉法人マグノリア2000が特別養護老人ホーム「シェステさとの花」を乗附町に開設
- 2004（平成16年）10月 デイケアくろさわ開設
- 2005（平成17年）3月 人間ドック・健診施設機能評価を認証取得
5月 電子カルテ・システム（外来1次分）稼働開始
- 2006（平成18年）8月 プライバシーマーク認定取得
- 2007（平成19年）4月 レセプトオンライン開始
6月 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック着工
9月 入院基本料7：1届出
- 2008（平成20年）1月 医療法人 社団美心会のシンボルマークをリニューアル
4月 DPC対象病院の認定を取得
10月 働きやすい病院評価認定取得
- 2009（平成21年）7月 黒沢病院附属ヘルスパーククリニックを開院（ドック病床19床）
疾病予防運動施設メディカルフィットネス&スパ ValeoPro（ヴァレオプロ）を同時オープン



黒沢医院



旧黒沢病院



シェステやまの花



シェステさとの花



ヘルスパーククリニック

- 2010（平成22年） 4月 適合高齢者専用賃貸住宅（現・サービス付き高齢者向け住宅）「ラ・ヴィオラ中居」オープン
 5月 高崎健康管理センターが脳ドック学会認定施設となる
 9月 リハビリテーションセンターを開設
 10月 健康情報誌「BISHIN」が第10回ヘルスケア情報誌コンクールで最優秀賞受賞
- 2011（平成23年） 4月 内視鏡センター開設
 7月 腎センターを「透析センター」と改称し、43床から58床へ増床
 10月 “HISフォーラム2011 in 高崎”（NPO日本HIS研究センター主催）開催
 11月 ValeoProが厚生労働省の「指定運動療法施設」に認定
- 2012（平成24年） 3月 特定非営利活動法人 前立腺がん検診推進ネットワークを設立
 4月 健康情報誌BISHIN 100号達成
 5月 美心祭20回達成
- 2014（平成26年） 7月 黒沢病院新築移転（108床）、脳卒中センター開設
- 2015（平成27年） 4月 介護老人保健施設「老健くろさわ」開設
 黒沢病院130床に増床
- 2016（平成28年） 5月 農林水産省「病院等で花木を取り入れた活動事例集」医療機関17施設に選ばれる
 7月 高崎健康管理センター 健診部門開設
 8月 生活支援サービス ベンリーくろさわ高崎中居店を開設
 9月 ValeoPro ANNEX 開設
- 2017（平成29年） 4月 高齢者あんしんセンターくろさわ開設
 5月 美心祭25回達成
 12月 創立40年を迎える
- 2018（平成30年） 8月 健康経営優良法人2018（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（初）
 9月 介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢開設
- 2019（平成31年） 2月 健康経営優良法人2019（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（2回目）
- 2020（令和2年） 2月 健康経営優良法人2020（大規模法人部門）認定取得（3回目）
 4月 帰国者・接触者外来開始、PCR検査開始
 11月 発熱外来仮設診療所を敷地内駐車場に設営し運用開始
- 2021（令和3年） 1月 新型コロナ感染軽症者宿泊療養施設への看護師派遣開始
 2月 健康経営優良法人2021（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（4回目）



ラ・ヴィオラ中居



新黒沢病院



カーサ・デ・ヴェルデ黒沢

- 新型コロナ感染症回復患者の受入開始
- 新型コロナワクチン接種に関する高崎・安中地区の基本型接種施設に指定
- 3月 ヘルスパーククリニック高崎健康管理センターにて新型コロナワクチン接種開始
- 5月 黒沢病院6階にてコロナ中等症患者受入病床運営開始（10床）
コロナワクチン日曜接種開始
- 6月 コロナ中等症患者受入病床12床に増床
Gメッセ等に新型コロナワクチン接種のための医師、看護師の派遣開始
- 7月 Gメッセでの職域ワクチン接種実施
- 10月 コロナ中等症患者受入病床13床に増床
- 11月 コロナ中等症患者受入病床16床に増床
群馬県より県営ワクチン接種センター 新型コロナウイルスワクチン接種推進による
感謝状を拝受
- 12月 院内での新型コロナワクチン接種数が3万件を超える
- 2022（令和4年） 2月 健康経営優良法人2022（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（5回目）
- 3月 内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ・システム」（Inntuitive Surgical社製da Vinci Surgical System）を導入
陰圧対応の多床室を設置
- 4月 サービス付き高齢者向け住宅「ラ・ヴィオラ中居」増築
- 7月 ValeoPro リニューアル・オープン（全トレーニングマシンを入れ替え）
院内での新型コロナワクチン接種数が5万件を超える
- 12月 院内の細菌検査システム稼働
院内血液培養検査およびグラム染色を開始
- 2023（令和5年） 3月 健康経営優良法人2023（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（6回目）
- 10月 地下水活用システム稼働
- 12月 コロナ病棟閉鎖
- 2024（令和6年） 1月 日本医療マネジメント学会第11回群馬県支部学術集会を主幹病院として開催
- 3月 健康経営優良法人2024（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（7回目）
- 4月 日本脳卒中学会の一次脳卒中センターPSCコア施設に認定
- 2025（令和7年） 2月 手術用ロボットシステム「AQUABEAMロボットシステム」を導入